

「食料問題について考えよう」
～給食×家庭科×社会科×…～

1. 学年・組 5年西組 32名

2. 目指す子供の姿

他者の考えを受け入れ、自分の考えと擦り合わせる活動を通して、自分の「わかったつもり」に気づき、他者とともに問題を解決していく子供

3. 本時における「子供とつくる学び」

給食時間では、食べる量に個人差が見られるものの、多くの子供がよく食べ、学級としての残食もほとんどない。その様子から食べることへの関心はとても高く、給食時間に見るスライドを作りたいという声もあり、食べ物への関心も高いことがうかがえる。

新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の影響で大阪産の畜産物、海産物が給食用として無償提供になった。そのうちのなにわ黒牛は、12月にステーキ、1月にビーフシチューとして給食で提供し児童らは味わっており、「おいしい」という感想を多く聞くことができた。しかし、無償提供になった背景については深く触れずに提供した。

そこで本単元を通して、無償提供になった背景とともに食品ロスに焦点を当て、現在の日本の食料問題の解決方法を考えていく。本時では、消費者の立場で考えるだけでなく、生産者側の立場にもなり考えることで、食料問題を広い視点で考えられるようにしていく。

4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

食料問題に限らず、コロナの影響で打撃を受けていることは多い。それは、目に見えるものもあれば見えにくいものもある。その状況を解決するための正解はなく、解決方法について考えることは容易ではない。しかし現状を知って終わるのではなく、今の自分に何ができるのかを考えることが解決への一歩だと考える。

今の自分にできることを考える際には、他者と話し合う中で多様な視点を持ち、自己中心となった意見ではなく、他者のことを考えた意見が生まれることを子供たちに期待する。

そこで本単元では、コロナ禍の食品ロスに焦点を当て、場の設定を重視する。

他者のことを考えるには、消費者の視点だけでなく、生産者の視点も持つことが必要だ。生産者の視点を持つために、なにわ黒牛の生産者をゲストティーチャーに招き、実際に生産のこだわりや現状について話を聞く。その話を受けて、子供たちは解決策を考え、それが実現可能なのか、生産者も交えてサミットを行う。そして、まとまった解決方法について発表する場を用意する。

こうして設定した場により、コロナ禍の食課題に対し、消費者としての解決策を考えていたものが、生産者に寄り添った解決策となるように、児童、生産者とともに考えていきたい。

5. 教材について

他国に比べて低い食料自給率、農薬問題、食品添加物、放射能汚染、フードマイレージ等、日本が抱える食料問題は様々である。本単元では、食品ロス、地産地消等に主に焦点をあてて食料問題について知り、その解決に向けての自分の考えを深めていく。

コロナの影響で国内産の様々な食材が余っている。本単元では、給食に提供したなにわ黒牛を例にあげて食材が余っていることを取り上げる。給食で実際に味わったことにより、なにわ黒牛の生産者にも寄り添いやすいだろう。今の自分にできることとして消費者の立場で考えるだけでなく、生産者の生の声を聞いて生産者の立場で考え、消費者・生産者の双方の立場で考えることを通して、食品ロスを減らすことへの考えを深めていくことができる。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の食料問題について現状を知り、その課題の解決に必要な知識を身につけている。食生活は、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていることを理解している。	コロナ禍の食品ロス問題に対して問いを見だし、解決策を考えるために情報を集め、整理・分析している。まとめたことを他者に伝えようとしている。	食料問題の解決に向けて自ら考えようとするとともに、消費者、生産者の立場に立って考えながら、食料問題に対して今、自分にできることを見つけようとしている。

7. 単元計画

次	時	内容
1	1	国内で起きているコロナ禍の食品ロス問題について知り、大阪府の食品ロスに焦点をあてて現在の食の課題を見つけ消費者の立場でできることについて考える。
2	2	解決策を考えるために、食品ロス削減の取り組みを調べる。
	3	調べた取り組みをもとに消費者の立場でできることを考える。また、生産者に聞きたいことを考え、まとめる。
	4	なにわ黒牛の生産者にインタビューをする。
	5	生産者、消費者の立場から食品ロスを減らすための方法について考える。 ★本時
3	6	解決方法について考えたことをなにわ黒牛の生産者を交えて、食品ロス削減サミットを開催する。
	7	サミットを受けてわかったことをもとに、今の自分にできることについて再度考える。
4	8・9	考えたことをまとめ、発表する。

8. 本時の目標

生産者・消費者の立場から食品ロスを減らすための方法を考えることができる。

【思考・判断・表現】

9. 本時の展開

